

松原田中遺跡

盛土 2 区・盛土 4 - 1 区

現地説明会資料

弥生時代のネックレス

長さ 1.2 cm の小さなガラスまがたま勾玉です。盛土 2 区の包含層から出土しました。製作年代を示す土器は伴わないため、時期は定かではありません。これとよく似た勾玉は、遺跡にほど近い弥生時代後期中葉（約 1900 年前）の松原 1 号墓にて、首飾りとして副葬されていました。



古墳時代のゴミ穴？

東西方向 3.1m、南北方向 1.9m、深さ 0.3m の大きな穴です。穴の各所から、古墳時代前期の土師器がはじきまともって出土しました。出土した土器は全て破片となっていたことから、割れた土器片を捨てたゴミ穴なのでしょうか。古墳時代の人々の暮らしぶりを知るうえで貴重な資料といえます。



中世の井戸？それともゴミ穴？

直径 1.8m、深さ 0.4m の穴です。穴の中から多量の人頭大の礫と共に、中世の土鍋が破片となって出土しました。穴の底は湧水層ゆうすいそうに達しており、井戸として利用するために掘られたものか、あるいは割れた土器を捨てたゴミ穴かもしれません。これとよく似た穴は、全部で 2 基見つかっています。



公益財団法人 鳥取県教育文化財団 調査室

〒 680-1133 鳥取市源太 12 番地 TEL: 0857-51-7553 FAX: 0857-51-7550
ホームページ: <http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu.htm>

これまでの松原田中遺跡の調査



ちちゅうばり ぬのほりほったてはしらたてもあと 地中梁を伴う布掘り掘立柱建物跡

柱を支えるため地中に太い角材を据えた古墳時代前期（約1700年前）の建物です。堅牢な造りなどから高床倉庫と考えられます。



た 木器溜まり（弥生時代前期～中期初頭）

湿地から木製農具や容器の未成品などが多く出土しました。



古墳時代前期の区画溝

溝の中から多量の土器が出土しました。遺構・遺物はこの溝の東側から多く見つかりました。



どうたく 銅鐸の破片（内面）

盛土1区からは銅鐸の破片が2点、3区からは銅製の腕輪である銅釧の破片が1点出土しています。

生産域 居住域

平成22年度1区 平成22年度2区 平成25年度3区 平成25年度4区

平成25年度盛土1区

盛土2区

盛土4-1区

今年度調査区

50m



弥生時代中期の水田跡

遺跡の西側の低地には水田が広がり、生産域となっていました。



平成25年度3区の密集する遺構群



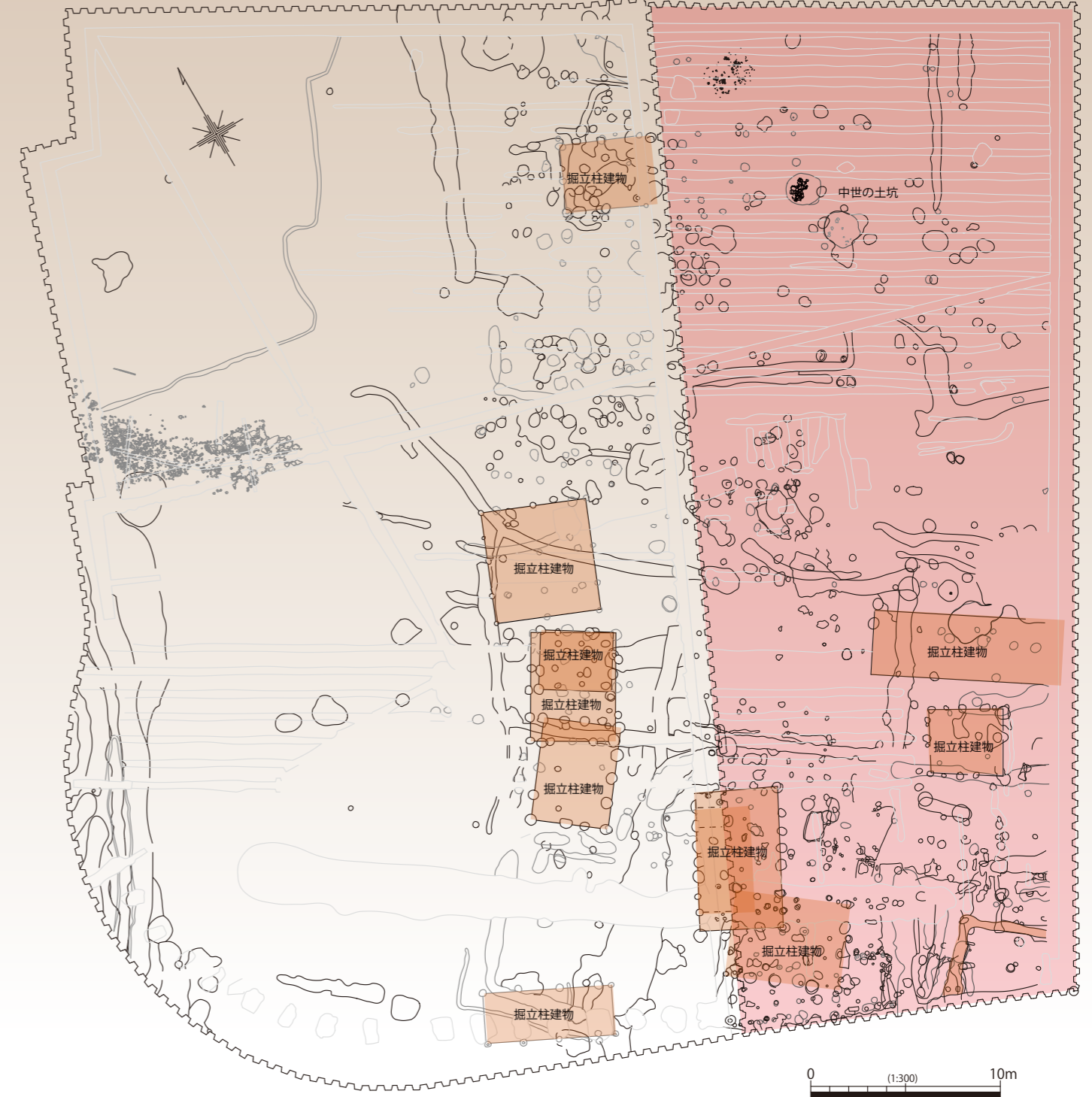
掘立柱建物

盛土1区では古墳時代後期頃の建物跡が8棟見つかりました。

松原田中遺跡古墳時代～中世の遺構

盛土1区(平成25年度調査)

盛土2区(現在調査中)



【松原田中遺跡の概要】

松原田中遺跡は一般国道9号（鳥取西道路）の改築工事に伴い、これまで平成22、25年度に調査を行いました。調査の結果、弥生時代から古墳時代（約2,200年前～1,500年前）にかけてのムラの跡で、平成22年度2区から盛土1区にかけては居住域、その西側には水田が広がること明らかとなっています。また、加工途中の木製鋤や、石器や管玉を作った際の破片や石材が見つかり、木器や、石器、管玉などの首飾りといったものづくりが盛んであったことが明らかとなりました。さらには、近畿地方との関連が窺える銅鐸や銅釧（青銅製の腕輪）、瀬戸内地方で多く出土する分銅形土製品が出土する等、他地域との交流も盛んであったようです。

【今年度の調査の概要】

今年度は、盛土1区の東側に隣接する盛土2区およびその東側の盛土4-1区の調査を行っています。これまでに、2区は昨年度と同様古墳時代後期頃（約1,500年前）の掘立柱建物や土坑（穴）が見つかるなど、居住域が東へ広がっていることが確かめられました。また、盛土2区、4-1区ともに、これまでは少なかった13～14世紀代を中心とする中世の遺構や遺物を検出したことから、中世の人々の営みも徐々に明らかになってきました。